



校長だより 2026年(令和8年)5月19日

どの「教科」が好きですか？なぜですか？

と問われたらいかがですか。

わたしは、「社会科」が好きでした。地図帳や資料集を見ては、その地の風景を想像し、「行ってみたい」と思い、「何を食べようか」「お土産は何にしようか」と考えるのが好きでした。その地までの交通手段や交通費を考えることもありました。また、史実を知り、立場を設定して、「自分なら…」と自分に置き換えて考えるのが好きでした。社会的な問題には、理由をつけて自分なりの考えをもつのが好きでした。なぜ「社会科」だったのかと考えると、自由に考えることができ、何か役立ちそうというワクワク感があって、楽しかったのだと思います。

一方で、「算数・数学」は、時間の経過とともに、嫌いになっていきました。「正解」を見つけていく価値はすごく感じていましたが、「正解」にたどり着くまでの方法を「指定」されることに抵抗感を持ちました。また、負の数(−)や平方根(√)など、「答え」を求めるための「操作」はしていたように思いますが、数の世界(概念)の理解に至っていなかったような気がします。

考えてみると、好き・嫌い、得意・苦手は、テストの結果(点数)や担当の先生との関係も影響があったように思いますが、究極のところ、自身の問題として、「教科」の本質に向かって追究していく「面白さ」を持っていたかどうか大きいのだと思います。

子どもたちの「学び」のために、わたしたちの役割には大きいものがあります。

各教科の本質を考え、授業づくりを進めていくことが、子どもたちの「学び」に深みや面白さをもたらすことができると思います。

みんなで知恵を出し合い、挑戦していきたいと思っています。

A school that nurtures dreams and hopes ~夢と希望を育む学校~